

交通事故再発防止の環境整備

問 松阪市では11月19日～22日までの4日間で、死亡事故が3件発生した。



嬉野町中川地内



正面が嬉野交番

写真は3年連続しての「死亡事故現場」であるが、横断歩道は消えかかり、街路樹に隠れて速度標識は全く見えない。

街灯はあるが、電球が切れているため暗い。県警として事故再発防止に向け、どのような取組みを行っているのか。

答 警察本部の再発防止研究班、管轄警察署、建設事務所による合同の現地調査を実施している。今回は横断歩道の塗り替え、道路標識の調整、カラー舗装、樹木伐採など道路交通環境の改善策を講じる。

意見

今後、道路管理者等と情報を共有し、交通事故防止に向け、取り組んでいただきたい。

また、警察ばかりが矢面に立たされているが、交通安全施設整備事業の予算編成は、県の財政当局である。警察関連の予算にもしっかりと光を当てていただきたい。

所有者不明土地について

者不明土地は各地で増え続け九州の面積を上回っている。国の動向及び県の対策はどうか。



問 不動産登記簿等が適切に更新されないため、「所有

答 国は所有者不明土地を利用する仕組みや相続登記の解消を図るための法律を来年の通常国会に提出する。県としては国の動向を注視していきたい。

答 地籍調査はトラブルの未然防止、土地の有効活用、公共事業の効率化、災害復旧の迅速化等様々な効果がある。関係部局と連携し調査を進めていきたい。

問 全国では、地籍調査の進捗率が、99%の県もあるが、三重県はワースト2位の9%しか進んでいない。今後、県はどのように地籍調査を促進していくのか。

災害薬事コーディネーター設置について

問 災害時に医薬品等を迅速かつ円滑に供給するため、多くの自治体が、「災害薬事コーディネーター」を設置している。三重県においても、南海トラフ大地震など、大規模災害が想定されることから、早急に導入を行っていただきたいがどうか。

答 熊本地震でも有用性が示されたことから、次年度に設置を進めたい。モバイルファーマシーの活用や災害薬事コーディネーターの導入などこれまでの災害から得た経験や教訓を積極的に検討活用し、災害薬事に関する体制の強化を図っていく。



モバイルファーマシー